

平成五年度

帯広市

文化賞  
文化奨励賞

帯広市教育委員会

# 帯広市文化賞受賞者紹介



やま かわ さぶ ろう  
山 川 三 郎

(72才)

## 〈受賞理由〉

氏は、昭和35年に帯広地区吹奏楽連盟を創設し、初代理事長として吹奏楽の普及にあたり、今日の帯広十勝における吹奏楽発展の礎を築きました。

さらに、北海道吹奏楽連盟常任理事として活躍する一方、昭和58年からは全日本吹奏楽連盟の常任理事を務めるなど、その活躍は道内外に及んでいます。また、帯広市民劇場運営委員、副委員長を歴任され、その間、氏の深い識見と豊かな人間性から常に指導的立場にあり、多くの有為な人材を育成するなど地域の芸術文化の普及発展に大きく寄与しました。

こうした氏の長年にわたる真摯な活動とその功績は地域文化の向上発展に大きく寄与するものであり、帯広市文化賞を贈り顕彰します。

## 〈略歴〉

大正10年	帯広市に生れる
昭和15年～56年	小中学校の教諭、教頭、校長を歴任
昭和35年～56年	帯広地区吹奏楽連盟理事長
昭和35年～	北海道吹奏楽連盟理事、常任理事
昭和38年～59年	帯広市民劇場運営委員会委員、副委員長
昭和52年	帯広市民劇場功労賞受賞
昭和56年	十勝教育局教育実践表彰受賞
昭和57年	帯広市開基100年功労者表彰（教育文化）受賞
昭和57年～	帯広地区吹奏楽連盟顧問
昭和58年～	全日本吹奏楽連盟常任理事
昭和60年～	帯広市民劇場運営委員会顧問
平成3年～	帯広市民文化ホール運営審議会委員、委員長
平成4年	十勝文化会議特別賞受賞 帯広市開基110年記念演奏会実行委員長

# 帯広市文化奨励賞受賞者紹介



かとうせいいち  
加藤 静 一

(52才)

## 〈受賞理由〉

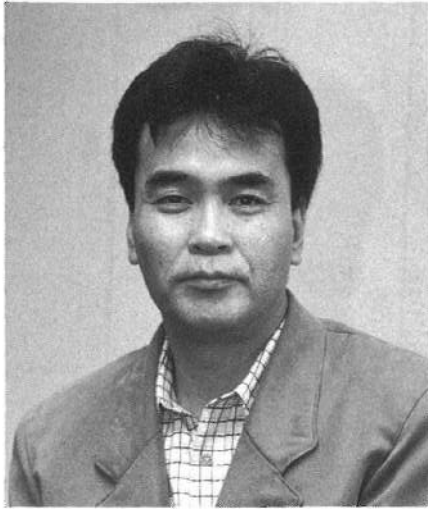
氏は、合唱音楽の指揮、指導に情熱を注がれ、数多くの演奏会、コンクール等に出場し優勝するなど、音楽に対する深い造詣と指導者としての資質は斯界より高い評価を受けております。また、帯広合唱連盟の副理事長として合唱音楽の普及向上のために尽力されております。

こうした氏の真摯な活動は、帯広市の音楽文化の振興に大きく寄与するものであり、今後もますます期待するところが大きいので、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰します。

## 〈略歴〉

昭和16年	上湧別町に生れる
昭和42年～	帯広三条高等学校教諭 同校合唱部指揮者に就任
昭和48年～	帯広三条混声合唱団を結成(定期演奏会20回連続公演)
昭和50年～	帯広合唱連盟副理事長に就任
昭和56年～	女声合唱団「ヴォワ・デ・フルール」を結成し指揮者に就任
昭和60、62年	全日本合唱連盟北海道支部より総合優秀指揮者賞受賞
平成元年	帯広市民文化ホール柿落公演「天地創造」合唱指揮指導
平成3、4年	「ヴォワ・デ・フルール」全日本合唱コンクール北海道支部大会金賞受賞
平成4年	帯広市開基110年記念公演「交響詩十勝、メサイア」合唱指揮指導
平成5年	帯広市民文化ホール開館5周年記念「PMFオーケストラ演奏会」合唱指揮指導
平成5年	「ヴォワ・デ・フルール」全日本合唱コンクール北海道支部大会最優秀金賞受賞全国大会出場決定

# 帯広市文化奨励賞受賞者紹介



たき がわ ひで とし  
瀧 川 秀 敏

(40才)

## 〈受賞理由〉

氏は、昭和51年に帯広美術研究所を開設し、主に美術大学受験生や一般美術愛好者の指導と育成を行うとともに、美術家としても旺盛な創作活動を続けられ、独立美術展等にも出品し、その作品は地元美術界はもとより中央においても高い評価を受けております。

このような卓越した技芸に裏づけされた作品により、寺島春雄賞等を受賞する一方、平成元年には十勝の作家としては初めて箱根彫刻の森美術館に作品が収蔵されております。

こうした氏の真摯な活動は、帯広市の美術文化の振興に大きく寄与するものであり、今後もますます期待するところが大きいので、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰します。

## 〈略歴〉

- 昭和27年 上士幌町に生れる
- 昭和50年 武蔵野美術大学卒業制作優秀賞受賞（作品は同大学に収蔵）  
二人展開催（東京）
- 昭和51年 帯広美術研究所開設
- 昭和51年～ 全道展5回連続入選
- 昭和51年～ 独立美術展16回連続入選
- 昭和53年 個展開催（帯広）
- 昭和55年 独立美術協会会友
- 昭和61年 寺島春雄賞受賞
- 昭和62年～ 帯広市民劇場運営委員
- 平成元年～ 平原社美術協会会員
- 平成3年～ 帯広百年記念館運営審議会委員
- 平成3年 弘文堂アート大賞受賞

# 帯広市文化奨励賞受賞者紹介



げき だん えん けん  
劇 団 演 研

## 〈受賞理由〉

本団体は、昭和50年に発足以来、既設のプロセニウムから離れて、演ずる者とこれを鑑賞する者が一体となった演劇空間を創造することを指向し、今日まで18年間、毎年休むことなく25回にのぼる公演を行って来ています。

また、他都市演劇グループとの交流研鑽にも意を用いるとともに、平成2年には「演研芝居小屋」を作り、団員一丸となって質の高い演劇を創造するための地道な活動を行っています。

こうした真摯な活動は、帯広市の演劇文化の振興に大きく寄与するものであり、今後ますます期待するところが大きいので、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰します。

## 〈略歴〉

昭和50年	帯広演劇研究会発足
昭和51年	第1回公演「僕らは生まれ変わった木の葉のように」
昭和60年	団の名称を「劇団演研」に変更
昭和61年	旭川劇団「河」との合同公演「嫉妬」
昭和63年～平成元年	ロングラン公演開催
平成2年	演研芝居小屋柿落公演「木蓮沼」
平成3年	釧路公演実施
平成5年	第25回公演「トイレはこちら」